

30 周年記念報告書集

編集後記

平成29年8月8日に開催された医療の基礎的・先駆的研究審議部会で医療の助成事業を開始してから平成29年度で40周年を迎えることから何か記念事業を行ってはどうかと当時の横山理事長から提案があり、部会に諮ったところ記念誌を作ったかどうかとの御意見があり研究報告書を纏めた記念誌を作成することとなりました。

その後事務局で医療の助成事業について過去の資料を調べ直したところ、医療の研究助成を始めた当初の10年間は研究助成の分野が定まっていなかっただけでなく、毎年継続的には行われていないことが判明しました。

このため、研究報告書を記念誌として纏めるためには、昭和63年度から「がん・心臓病」に焦点を絞って助成を開始してからの方が良いのではないかとすることになり、部会の先生方の御意見も伺い、今般のがん・心臓病の30周年記念誌となりました。

昭和60年代の研究報告書には、手書きの報告書もあり達筆な先生方の専門用語を医学に素人の本財団の職員や印刷業者では判別のつかないものも多々あり、杉本先生をはじめ医療の基礎的・先駆的研究審議部会の委員の先生方のお力をお借りして何とか発刊に至りました。

30年間の研究報告書には、現在のがん・心臓病の医学の発展に寄与したものだけではなく、現在の医学界では否認されているものも有ろうかと存知ますが、その研究が行われた時点では可能性の一つで有り本研究が行われたこと等により、現在の評価を導き出すことに寄与しているものと推測されます。その意味では本財団が助成を行った研究は何れも意義のある研究で有ったと確信しております。

この30年間のがん、心臓病の基礎的・先駆的研究の選定にあたっての審査には、多くのがん、心臓病の先生方の御助力を頂き大変有り難うございました。

昨今の金融情勢等から財団の財務状況は必ずしも良いとはいえませんが、がん・心臓病に対する社会の関心は高く、財団としてはできるだけ今後とも医療の基礎的・先駆的研究に対して助成事業を継続して参りたいと考えております。
最後に、本研究報告書を取り纏めるにあたって御協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

常務理事・事務局長 讃岐 誠悦

